

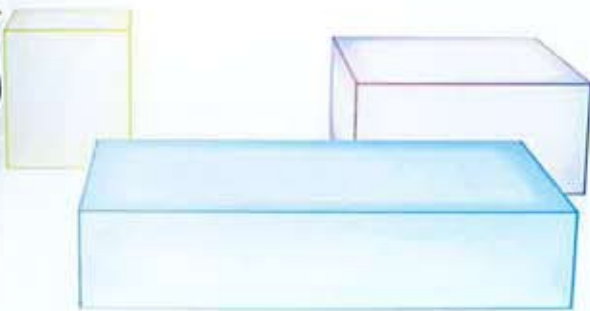
世界に誇るべきニッポンの100人。

世界を感動させるアーティスト、日本という枠組みを超えた美意識を発信するデザイナー、和食を無形文化遺産にした立役者の料理人、世界が認める建築家、研究者、スポーツ選手……。日本という国を支え、前進させ続けているのは、まぎれもないそんな「人の力」だ。ここに登場する、世界に誇るべきニッポンの100人たちが、これからも日本の、いや世界の未来をつくっていく。

- | | | | | | | | | | |
|-----------|-------------|-----------|------------------------|-----------------------|-----------|-----------|-------------|-----------|-------------------|
| 091:高田 茜 | 081:横 文彦 | 071:外岡富士雄 | 061:村山 斉
©KAWA IMPU | 051:田村奈穂 | 041:鎌山 創 | 031:佐藤伸一 | 021:杉本博司 | 011:室田志保 | 001:ミヤビ |
| 092:錦織 圭 | 082:田根 剛 | 072:道脇 裕 | 062:川久保 玲 | 052:佐藤可士和 | 042:諸星大二郎 | 032:松嶋啓介 | 022:永田 力 | 012:菅野敬一 | 002:友田ヨシ |
| 093:葛西紀明 | 083:藤本壮介 | 073:高橋智隆 | 063:渡辺淳弥 | 053:スズキユウリ | 043:池田理代子 | 033:吉武広樹 | 023:草間彌生 | 013:多湖弘明 | 003:真田広之 |
| 094:吉田沙保里 | 084:アトリエ・ワン | 074:水野和敏 | 064:館鼻則孝 | 054:長嶋りかこ | 044:堤 大介 | 034:肥土伊知郎 | 024:横尾忠則 | 014:藤城清治 | 004:三橋忠央 |
| 095:内村航平 | 085:長坂 常 | 075:大平貴之 | 065:ザ・イノウエ・ブラザーズ | 055:奥山清行 | 045:高畑 勲 | 035:桜井博志 | 025:村田吉弘 | 015:ミヤケマイ | 005:レッキンクルーオーケストラ |
| 096:羽生結弦 | 086:SANAA | 076:田宮俊作 | 066:廣川玉枝 | 056:石本藤雄 | 046:緒方慎一郎 | 036:佐藤祐輔 | 026:成澤由浩 | 016:猪子寿之 | 006:ベビーメタル |
| 097:三浦知良 | 087:孫 正義 | 077:鈴木 功 | 067:高橋 盾 | 057:三浦公亮 | 047:佐藤オオキ | 037:岡本英史 | 027:豊島久博+雅信 | 017:奈良美智 | 007:中田ヤスタカ |
| 098:イチロー | 088:豊田章男 | 078:伊東豊雄 | 068:阿部千登勢 | 058:遠藤 謙 | 048:片山正通 | 038:大友克洋 | 028:建守 護 | 018:名和晃平 | 008:中山邦夫 |
| 099:本田圭佑 | 089:星野佳路 | 079:安藤忠雄 | 069:鈴木大器 | 059:山中伸弥
©CIRA | 049:吉岡徳仁 | 039:浦沢直樹 | 029:柳澤 宙 | 019:荒木経惟 | 009:抜土秀平 |
| 100:藤波貴久 | 090:増田宗昭 | 080:隈 研吾 | 070:中村ヒロキ | 060:野口聡一
©JAXA/CTC | 050:太刀川英輔 | 040:美内すずえ | 030:猪俣憲一 | 020:森山大道 | 010:内藤誠治 |



中目黒にオープンした「ツマミグイ」は、回転寿司のオペレーションを活かしてわがままオーダーに対応する。上：店名、ロゴ、空間をトータルにnendoが手がけた。下：テーブルごとにスタイルの異なる店内。



ミラノサローネに合わせて発表される新作テーブル「soft」と佐藤オオキ。ガラス家具の名門、グラスイタリアとのコラボレーションにより、新しい9コレクションと既存の3コレクションを展示するエキシビションが、ミラノのベルマネンテ美術館で4月14日から開催される。



ミラノ万博で発表されるテーブルウェア。左2点と中央手前の器は、立体的な柄を手のひらで楽しめる有田焼。右の器は内側の立体感で漆の艶を強調した山中塗。いずれも黒が技の存在感を高める。



「soft」と同じく、グラスイタリアとのコラボレーションで生まれた「slide」。落ちそうで落ちないフタ状のガラスに、接着技術の高さが活かされている。また内部は均一に白で塗装されている。

nendo代表 << OKI SATO 佐藤オオキ 047

モノから都市へ、視線の先にあるのは……。 100

デザイン

DESIGN

●1977年、カナダ生まれ。早稲田大学大学院で建築を学び、2002年の修了とともにデザインオフィスnendoを設立。プロダクト、インテリア、建築、グラフィックなどを幅広く手がける。近所に「問題解決ラボ」がある。

今年のnendoは、例年にも増して忙しい。世界有数のデザイン見本市、メゾン・エ・オブジェの「デザイナーズ・オブ・ザ・イヤー」に選出され、1月から5月にかけて3都市で記念インスタレーションを開催。4月のミラノサローネでは約20社から新作を発表し、翌月のミラノ万博でも新プロジェクトを披露。並行して、国内外で数十件の仕事が進行する。

たとえば4月のミラノでは、ガラス製家具の新たな切り拓くような作品が個展形式で発表される。「量産品ともアートピースとも違う、板ガラスの可能性を追求した実験的な取り組みです。『soft（ソ

フト）』というテーブルは、ガラスの縁を45度にカットして接着、断面に鮮やかな色をグラデーション状に配し、さらにその色がガラスに滲んだようなブリントを施しました。ガラスがやわらかい和菓子のように見えます」とnendo代表の佐藤オオキ。ほかにもズレや動きを表現した「slide」など、計12コレクションが一堂に展示される。

また5月のミラノ万博では、日本の伝統工芸や地場産業と組み、食をテーマに16点のプロダクトを開発。色を黒で統一して技の確かさを強調する。

「伝統的なものを現代にそのまま残すのは無理があ

ると思うんです。生物が進化するのと同じで、ものづくりも進化するから生き残れる」

佐藤は16のつくり手のもち味を見極め、それぞれにユニークなデザインを提案。完成した品を市場に流通させるため、仕組みづくりからかかわっている。

そんな佐藤が、いまデザイナーとして大きな興味をもっているのは2020年のオリンピック。といっても聖火台やトーチをデザインしたいのではない。「誰もが使うコンビニやタクシーのデザインが変わると、都市の魅力も増すはず。オリンピックは、そのための大きなチャンスだと思うんです」